

1 主題名 規則の役割 (資料名「美しい鳥取砂丘」 日本文教出版)

2 ねらい 一人一人にとって住みよい社会を目指すことの大切さを理解し、規律ある安定した社会の実現のために、法やきまりを遵守しようとする態度を養う。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目C-(10)「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」をねらいとしている。

どんな社会にもきまりがあり、そのきまりを守ることで秩序が生まれ、社会を形成する一人一人の自由が保障されている。きまりがなければ、社会集団としてのまとまりがなくなり、各個人の尊厳も守られなくなる。そのため、社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるということを理解することはとても大切である。

中学生の段階では、身近なきまりとして校則があり、校則について、「守らなければならないもの」と考えている生徒が多い。しかし、「校則に縛られている」と校則があることに不自由を感じている生徒も多く、校則によって自分たちの安全や自由が保障されていることに気づかず、校則をなくしてほしいと考えている生徒もいる。そこで、きまりによって学校生活を制限されていると捉えるのではなく、一人一人がきまりを守ることで、学校という社会に秩序が生まれ、一人一人の安全や自由が保障され、住みよい社会がつけられていることに気づかせることは大切である。よって、本主題について学習することは、一人一人にとって住みよい社会を目指すことの大切さを理解し、規律ある安定した社会の実現のために、法や決まりを遵守しようとする態度を養う上で意義がある。

(2) 生徒について

本学級の生徒は、中学校生活にも慣れ、中堅学年として落ち着いた学校生活を送っている。しかし、時に、周囲への配慮が足りず、自分本位な行動から、校則や学級のきまりを守れない生徒も見られる。これは、自分一人くらいきまりを守らなくてもいいだろうという意識の薄さや、一人一人がきまりを守ることでみんなにとって住みよい環境が作られることまで理解が至っていないことが要因であると考えられる。環境への慣れなどから、軽率な行動をとりがちな時期であるので、誰もが安心して気持ちよく過ごすために大切なことについて考えることで、自己への甘えや他者への無配慮が潜んでいないか、自分自身の行動を振り返ってみる機会をもつことが必要だと考えられる。

道徳の時間においては、ねらいとする価値について生徒自身の考えを深めさせ、班で考えを共有する活動を通して、多様な考え方に触れることに取り組んでいる。また、全体の前での発表が苦手な生徒も、自分の考えをワークシートに書くことができている。しかし、ねらいとする価値について、これまでの自分の生活を振り返ることや、今後の生活にどのように活かしていくべきかなど、自分の実生活に繋げる考え方が希薄である。

(3) 資料について

一人一人にとって住みよい社会を目指すことの大切さを理解し、規律ある安定した社会の実現を目指し、法や決まりを遵守しようとする態度を養うために、読み物資料「美し鳥取砂丘」(日本文教出版)を取り上げる。

本教材は、国の天然記念物に指定されている鳥取砂丘に、景観を損ねるような落書きが頻繁になされている現状があり、それに対する条例があるにも関わらず問題が解決されていないことや、当初は条例の内容に対して賛否両論あったことなどを取り上げている。落書きに出くわした主人公の「私」の家族が、ど

うしたら落書きをなくせるのだろうと考えたとき、すでに、落書きを規制する条例があることを知る。しかし、条例ができて落書きがなくなるという現状を通して、落書きをなくすにはどんな考えが大切なのか、また、きまりは何のためにあるのかを考えさせ、法やきまりを遵守しようとする思いを深めるために適した教材である。

(4) 指導について

導入の段階においては、6月に行われた本校の生徒総会で、校則検討委員会の発足を職員会に要望したことを振り返り、生徒にとって身近なきまりである校則について考えさせることで、ねらいとする価値に対する方向付けができるようにする。

展開前段では、「美しい鳥取砂丘を守り育てる条例」の賛否について考え、共有することで、きまりに対する多様な考え方に触れ、多面的・多角的に考えられるようにする。

展開後段では、「美しい鳥取砂丘を守り育てる条例」があるにもかかわらず、現在でも落書きがなくなるという現状から、落書きをなくすためには、どんな考え方が大切かを考える。これについて考えることで、法やきまりの意義やそれらを守る大切さを考えられるようにする。

終末では、めあてに設定した「きまりは何のためにあるのだろうか」について再度考えることで、考え方の変容に気づくことができるようにする。自他の考えの深まりに触れることで、法やきまりを遵守する義務を果たしていこうとする心情を高めていけるようにする。

4 事前・事後指導

5 学習指導過程

過程	学習活動及び学習内容	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 学校行事を振り返り、本時の主題に対する意識をもつ。		○ 身近なきまりである校則について考えさせることで、ねらいとする価値への方向付けができるようにする。
	2 めあてを設定する。 きまりは何のためにあるのだろうか。	・破ったら罰があるから。 ・知らないといけないものだから。	○ めあてを設定することで本時の学習内容を意識できるようにする。
展開	3 めあてについて今の考えを書く。		○ 今の考えを書くことで、授業を通した価値観の変容が可視化できるようにする。
	4 鳥取砂丘の写真を見て、教材の範読をする。		○ 画像を見せることで鳥取砂丘について興味をもてるようにする。
	5 「美しい鳥取砂丘を守り育てる条例」について、賛成反対の意見をもつ。	賛成 ・ 砂丘を楽しみに来た人たちを守るため。 ・ 天然記念物を守らないといけないから。 反対 ・ 罰金が重すぎる。 ・ 落書きをして楽しみたい人もいる。	○ さまざまな意見を出させることで、きまりについて、多面的・多角的に考えることができるようにする。

終末	6 らくがきをなくすためには、どんな考え方が大切だろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことばかり考えた行動をしない。 ・ 周りへの配慮の心をもつ。 	○ 落書きがなくなることについて考えることで、きまりを守ろうとする気持ちが住みよい社会をつくるために必要だということに気付くことができるようにする。
	7 めあてについて考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりは何のためにあるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりを守ることでみんなが暮らしやすい環境をつくるため。 	○ 終末の考えを書くことで、価値観の変容を可視化できるようにする。
	8 授業の感想を書く。		
	9 教師の説話を聞く。		

6 板書計画

。

7 評価規準